

## 日本臨床外科学会 国内外科研修報告

### 東邦大学医療センター大森病院での研修を終えて

藤沢市民病院消化器外科

大田 洋平

この度、日本臨床外科学会の国内外科研修制度神奈川県外科医会会長（支部長）の遠藤格先生に神奈川県代表として選出していただき、2021年3月15日から26日まで東邦大学医療センター大森病院で研修をさせていただきました。

腹腔鏡下手術が広まる中でこれまで腹腔鏡下肝切除を15例ほど経験してきましたが、手技の安定性や出血などの発生時に対処に迷うこともあり、より安全・確実な腹腔鏡下肝切除を実施するための手技やトラブルシューティングを多くの症例を経験された先生のもとで実際に見て知見を深めたいと考え研修に応募させていただきました。

東邦大学医療センター大森病院におかれましては国内で初めて腹腔鏡下肝切除を実施された金子弘真先生からの伝統があり肝臓内視鏡外科分野で多くの症例を経験されている施設です。全国学会や研究会で今回の受け入れ責任者の大塚由一郎先生のご発表や手術ビデオを何回も拝見し、発言される際のコメントの的確さに触れる中で自分の希望する研修ができると思い研修施設として希望させていただきました。

当初は2021年1月の研修を予定しておりましたが新型コロナウイルス感染症による非常事態宣言のため延期となり、研修開始時点では非常事態宣言も継続しており、研修中止も覚悟しましたが受け入れ責任者の大塚先生をはじめ多くの方々にご尽力いただき、研修を開始することができたことをこの場を借りて御礼申し上げます。

研修中は腹腔鏡下肝切除として肝内結石症に対する左葉切除、転移性肝癌に対する内側区域切除、肝細胞癌に対するS5垂区域切除など背景肝も疾患も異なる様々な症例を経験させていただき、さらに巨大肝腫瘍に対する開腹S4aS5切除、臍頭十二指腸切除や腹腔鏡下胆嚢摘出術も併せて経験することができました。

手術には見学および実際にカメラアシスタントや助手として参加させていただき、参加型の濃厚な研修の機会を与えていただきました。

腹腔鏡下肝切除を含めどの手術も論理的で穏やかに進行しており、手術中も折に触れて手技についての解説や切除の戦略を大塚先生からご提示いただくなど実際の臨床に役立つ貴重な経験となりました。また、出血などのトラブルが起きた際も冷静に対処し的確な処置が行われ、困難な症例に対しても鏡視下でやりきるといった情熱的な場面にも遭遇しました。

実際に手術を見学して鏡視下で完遂するためには多くの知識や経験に基づいた安全を担保できる処置や対応の引き出しが必要であることを実感しました。また、手術を見学しながら自分だったらどうするだろう、と想像しながら手術を見ていてその通りのことも、予想と違うこともあり、それらを目の当たりにしてから振り返り、時には質問させていただくことで自分の知識を整理したり間違いに気付いたり大変勉強になりました。

手術日以外には教室に収蔵されている門外生がなかなか見ることのできない肝切除ビデオを累計40例ほど見せていただくことができました。手術記録などと照らし合わせポート配置、肝臓の授動・脱転、肝切離手技、トラブルシューティングなど場面ごとに繰り返し視聴しました。大塚先生からも場面ごと

に様々なご意見をいただき、自分の現状と比較することで今後の手術に役立つ多くの知見を得ることができました。

肝胆膵グループのスタッフの先生方とは年齢やキャリアが近い先生が多く、腹腔鏡下肝切除だけでなく胆膵領域の手術や術後管理全般、勤務や日常生活など幅広い分野について話す機会を持つことができました。研修を通じて得た知識とともに、同世代、同じ分野でがんばる他施設の先生方からも大いに刺激を受けました。

研修期間中にはスタッフの先生方が執刀された腹腔鏡下肝切除のビデオを持ち寄ったカンファレンスにも参加させていただきました。ビデオを供覧し実際に手間取った場面、迷った場面などについて、どうして大変だったのか、どうすればよかったかなど基本的で素朴な疑問から術野の展開やdeviceの選択、切除を進める戦略など幅広い話題について研究会や学会発表ではなかなか聞きにくいことも含めて開け広げた議論を交わすことができました。

研修期間は密度が濃く、あっという間の2週間でした。手術見学を主体とした研修ではたくさんの症例を経験することも必要かもしれませんが、今回の研修では症例それぞれが示唆に富んでいて、1例ずつ振り返りながら研修を進められたことで結果として多くのことを学ばせていただき、とても有意義に行うことができました。

今回の研修で得た知識や経験を役立てられるように勤務先での日常診療でも修練を重ねて参ります。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった日本臨床外科学会の万代恭嗣会長、国内外科研修委員会委員長の高山忠利先生をはじめとした委員会の皆様、新型コロナウイルス感染症に伴う非常事態宣言のさなかに研修を受け入れていただきました船橋公彦教授をはじめとする東邦大学医療センター大森病院 消化器外科のみなさま、ご指導賜りました大塚由一郎先生ならびに肝胆膵グループの先生方に心より感謝申し上げます。



大塚先生と肝胆膵グループのスタッフの方々と手術終了後の1枚



カンファレンスの風景